

令和6年 稲作情報 vol.5

※この資料は、令和6年7月1日現在の農業登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262

南郷普及所 Tel 0241-72-2243

J A会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172

南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

下郷資材センター Tel 0241-69-1088

只見資材センター Tel 0241-84-2214

- 斑点米カメムシ類の適期防除を行いましょう。
- 生育ステージに合わせた水管理と高温対策を行いましょう。
- 穂肥を行う場合、生育状況から施用時期と施用量を判断しまししょう。

1 生育状況

(1) 生育情報

6/21 調査時点での生育は平年並～やや進んでいます。

品種名(場所)	移植日	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(枚)
ひとめぼれ(南会津町)	5/20 (-4)	36.2 (+3.3)	333 (+123)	6.8 (+0.6)
里山のつぶ(下郷町)	5/25 (+2)	27.6 (-1.4)	167 (-8)	5.7 (-0.2)
コシヒカリ(只見町)	5/18 (-3)	35.4 (+5.0)	484 (+279)	7.4 (+1.4)

※ 括弧内は直近5か年における平均値との差を示しています。

(2) 気象情報(気象庁1か月予報(7/4発表)から抜粋要約)

向こう1か月(7/6~8/5)の平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

◎ 農作業中の熱中症に注意!

県内では毎年5月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。



熱中症対策について(県HP)

2 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類防除

ア 斑点米カメムシ類について

- ・ 斑点米カメムシ類は6～7月に高温が続くと増殖しやすく、周囲の雑草からイネの出穂とともに水田へ飛来します。1,000粒に2粒斑点米があると2等に落等してしまいますので、適切な防除により斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・ 南会津地域で出穂期前後に多く発生が見られるのは、以下の3種です。

アカスジカスミカメ(4～6mm)



羽根に赤色の
太い縦条がある

アカヒゲホソミドリカスミカメ(4～6mm)



赤いヒゲがあり
胴体は細長の淡い緑色

ホソハリカメムシ(約1cm)



体色は
茶色

イ 耕種的防除(7月)

斑点米カメムシ類のえさ(イネ科・カヤツリグサ科雑草の穂)が出る前に行います。

【水田内の除草】

斑点米カメムシ類の侵入を助長するヒエやホタルイなどの雑草を残さないよう、発生している草種に応じた除草剤を散布します。

【畦畔の草刈り】

出穂10日前までに草刈りを終え、その後は稲のもみが固くなる出穂3週間後頃まで草刈りを行わないでください。

ウ 薬剤防除(8月)

薬剤防除を2回行い、カスミカメムシ類と大型カメムシ類双方を防除します。

【粉剤及び液剤(散布剤)の場合】

1回目は乳熟期(出穂期の7～10日後、実を潰すと白い汁が出る時期)に、稲の穂にかかるよう散布を行います。その後、7日後に2回目の散布を行います。

薬剤名	使用時期	使用量(10あたり)	本剤の使用回数
キラップ粉剤 DL	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
スミチオン乳剤	収穫21日前まで	1,000倍希釈 60～150ℓ	2回以内
スミチオン乳剤 (無人航空機の場合)	収穫21日前まで	8倍希釈 800ml	2回以内

【粒剤(水面施用剤)の場合】

穂揃い期(出穂し、穂が揃う頃)に湛水状態の水田へ均一に散布し、その後7日間は止水管理します。その後、多発が予想される場合は、散布剤による2回目の防除を行います。

薬剤名	使用時期	使用量 (kg/10a)	本剤の使用回数
スタークル粒剤	収穫7日前まで	3	3回以内
ダントツ粒剤	収穫7日前まで	3～4	3回以内

(2) いもち病防除

- ・ いもち病は夏季の低温、多雨、日照不足の気象条件により感染好適条件となります。また、窒素多肥はいもち病の発生を助長します。
- ・ いもち病防除は予防剤の使用を前提とし、いもち病が発生した場合は治療剤で早急に防除します。箱処理剤を使用したほ場でも穂いもち予防を行います。

ア 予防剤例

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の使用回数
フジワン粒剤	葉いもちに対しては初発7～10日前、 穂いもちに対しては出穂10～30日前 (ただし、収穫30日前まで)	3～5	湛水散布	2回以内
コラトップ粒剤5	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、 穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	3～4	散布	2回以内

イ 治療剤例

薬剤名	使用時期	施用量 (10aあたり)	使用方法	本剤の使用回数
ノンプラス粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg	散布	2回以内
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	1,000倍希釈 60～150ℓ	散布	2回以内

ウ 葉いもちの感染好適条件出現状況について

福島県病害虫防除所HPにて葉いもちに感染しやすい日の判定結果を掲載していますので、参考としてください。



発生予察情報
(防除所HP)

(3) 稲こうじ病防除

- ・ 稲こうじ病は穂ばらみ期の低温多雨や窒素過多の条件で発生しやすい病害です。
- ・ 昨年発生したほ場である場合や、穂ばらみ期に降雨が予想される場合は、出穂前に薬剤防除を実施します。

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の使用回数
モンガリット粒剤	収穫30日前まで	3～4	湛水散布	2回以内
Zボルドー粉剤DL	出穂10日前まで	3～4	散布	—
フジワン粒剤	出穂10～30日前 (ただし、収穫30日前まで)	3～4	湛水散布	2回以内

(4) 紋枯病防除

- ・ 紋枯病は①一度発生したほ場、②28～32℃の高温・多湿で発生しやすくなります。
- ・ 7月下旬～8月中旬にはほ場ごとの発生程度を確認し、必要に応じて薬剤防除を実施します。

薬剤名	使用時期	施用量(kg/10a)	使用方法	本剤の使用回数
リンバー粒剤	収穫 30 日前まで	3～4	散布	2 回以内
モンカットファイン粉剤 20DL	収穫 14 日前まで	3～4	散布	4 回以内

◎ 農薬危害防止運動を実施中

福島県では6月10日から9月10日まで農薬危害防止運動を実施しています。以下の注意点を確認し、安全かつ適正に農薬を使用しましょう。

- ・ 農薬使用前のラベルの確認及び農薬使用後の帳簿への記録
- ・ 適切な防護装備の着用の徹底
- ・ 誤飲を防ぐため、施錠による保管の徹底
- ・ 住宅地周辺で使用する際の周辺への配慮、飛散防止の徹底

3 水管理

(1) 出穂前

- ・ 中干し後初めて水を入れる際は、根腐れを防止するため走り水程度にし、その後は間断かん水とします。
- ・ 概ね 17℃以下の低温（気温）時には、不稔の発生を軽減するため、深水管理を行います。

(2) 出穂後

- ・ 出穂期の水不足は不稔を招くため、出穂前後3日程度は湛水管理とします。その後、間断かん水にて管理します。
- ・ 出穂以降も高温が続く場合は「飽水管理（田面は湿っており、溝、足跡に水が溜まっている状態）」を行いましょ。
- ・ 早期落水は、乳白粒等の発生による品質低下の要因となるので、落水は出穂後 30 日以降（9月上旬）を目安に行います。

4 穂肥

葉色などイネの栄養状態から穂肥の要否を判断します。穂肥が必要か判断に迷う場合、農林事務所へご相談ください。

(1) 施用時期

- ・ 主茎をカッター等で縦に2つに割き、幼穂長から施用時期を判断しましょう。

品種名（作柄判定ほ 設置場所）	穂肥適期の判断目安		出穂期(平年値)	穂肥の施用時期
	幼穂長	施用時期		
ひとめぼれ(南会津町)	2mm	出穂 20 日前	8/6	7/17
里山のつぶ（下郷町）	2mm	出穂 20 日前	8/6	7/17
コシヒカリ（只見町）	10～20mm	出穂 18-25 日前	8/10	7/16-7/23

(2) 施用量

- ・ N成分 1～2kg/10a を限度とし、茎数や葉色から量を調節し、施用します。
- ・ 出穂5日前以降の穂肥（実肥）は行わないでください。食味が低下します。
- ・ 穂肥を施用したら必ずいもち病対策を行いましょ。

次回発行は7月中～下旬頃(斑点米カメムシ類対策について)を予定